Voice

参加者から一言

全体講師

山西　優二
（早稲田大学
文学学術院教授）

皆さんお疲れ様でした。私は1年を通して3回ほどしか参加できませんでしたが、後半になるにつれ、皆さんのボルテージが上がり、苦労しつつも皆さんが熱くなっている姿をすがすがしく感じました。私も大学の演習では毎年グループ研究をやっていますが、学生たちが「地獄だー!」と叫び、苦労し、授業の時間枠を越えて、熱くなっている姿を見るとうれしくなります。協働で何かをつくり出すことって、楽しいからこそ大切にしたいと改めて感じています。

「船と翼の会ふくしま」チーム

チーム講師:布田 節子
（ふくしま青年海外協力隊の会）

一つのプログラムを作るのも大変なのに、まったく異なる2つのテーマを選択した船つばチーム。何度も何度も行きつ戻りつ、最後の最後に何とか全員納得できる「かたち」になって、やっと肩の荷が下りた気がします。背景の異なる人たちで一つのものを作成するのは大変だけど、学びが広がり実に面白く、仲間と共に作り上げるすばらしさを再認識させられました。チームの一員であれたことに感謝し、この出会いを大切にしたいと思います。

菅野 裕子
（船と翼の会ふくしま）

最初の国際交流事業参加で体験した事件は強烈でした。リーダーの役割など何年たっても頭からはなれませんでした。この事件から教材をつくることになり、これからの国際交流に役立てばと考えました。しかし、国際交流の場面ばかりではなく、生活のいたるところにある「意見の対立と解決方法」という切り口で多くの人たちに考える機会を与える教材になりました。私の苦労が数年を経て実を結ぶことになり、感慨深く思います。

菊地 紀子
（二本松国際交流ボランティアざくざくネット）

今回の学習プログラム案作成中に一人の先生がおっしゃいました。「仮にそれが不可能な理想であっても、子どもたちにはそれを提示しなければ、子どもは理想を描けなくなってしまう」。大人には、現実や限界が見えて理想は儚いと思うときもあります。でもどんな活動をしていても子どもへの影響を視野に入れ、自分もまたそれによって逆に励まされる必要があると感じました。

教育者、NGO、また全体の進行をサポートしてくれた協会の方々、さまざまな現場で活躍する人の「たくさんのやる気」に魅せられた一年でした。

松本 大光
（福島市立湯野小学校）

温かい「ざくざくネット」の氏家さん、菊地さん、熱い大和田さん、そしてナイス・リーダーの幕田さんと学習プログラム案作りをできたことは貴重な経験となりました。本実践を通し、子ども達だけでなく一般の方々までが、言葉に対して気づき、考える姿を幾度と見ることができました。教育の大切さを感じるとともに、授業を作り上げる楽しさを再認識しました。本当にありがとうございました。

氏家 瑞江
（二本松国際交流ボランティアざくざくネット）

最初、このプログラムに関わるときは、NGOとしての日本語教室の働きが、子ども達の「ことば」への気づきや感性を磨く一助となり、また、子ども達が言葉の違う人たちとも広く学び合える、柔らかい心を育てる力の一端になれたら素晴らしい事だと思っていました。

そして、実際に、教育現場に参加させていただいたり、セミナーで多くの人たちと出会ってみて、思いがけない程の素直さや真剣さに触れ、心地よい感動を覚えました。皆様ありがとうございました。

大和田 智子
（福島市立北沢又小学校）

楽しかった!これが一番の感想です。今まで出会うことのなかった人々と出会うことで、今までにない感動や衝撃をたくさん得ることができました。話し合いをする中でさらにいろいろな考えが出てきて、みんなで作り上げていくよさや楽しさを十分に味わわせてもらえました。子どもたちは、人と関わると大きく成長するのが見て取れますが、大人も同じですね。この出会いに感謝です。お陰様で、ますます「人」が好きになりました。

「二本松国際交流ボランティアざくざくネット」チーム

チーム講師:幕田 順子
（(財)福島県国際交流協会）

自分自身もNGO活動をしていることもあり、地域で活動しているNGOは国際理解教育の身近な素材として十分活用できると思っていました。また、平成13年度に作成した学習プラン集「みんなでつなごう、教室と世界」の作成に関わったメンバーの輪をもっと広げられないかとも思っていました。そして今回、事業担当者という立場でこの思いを実現することができて、とてもうれしいです!皆さんご協力ありがとうございました。